

JR東海が押し進める駅無人化に反対！

集中旅客サービスシステム導入の問題点を自治体に発信

2019年11月、会社は東海道線・関西線の10駅に集中旅客サービスシステムの導入（実施時期は令和2年12月以降）を明らかにしました。この間も多くの駅で同システムが導入されました。私たちはこのシステムについては駅無人化であるという認識です。過去には該当駅前でビラ配布も行いました。今回は該当する市町村にシステム化の問題点についてお知らせしました。

【問題点1 利便性】

今回の施策では設置される券売機の種類によっては従来駅員から購入できていた新規の定期券購入ができなくなります。隣接する駅も今回の施策により無人化されるために遠方の有人駅に出向いて購入しなくてはならないなど不便になります。新学期における定期券購入は多くの駅で混雑していましたが、これまで以上の混雑が予想されます。

【問題点2 安全性】

身体に障害があるお客様への対応が心配されます。システム導入後は駅構内に設置されたカメラの映像のみにより遠隔案内センターで判断することになります。障害は車椅子・視覚・聴覚・ろうあと多岐に亘ります。カメラ映像だけでは判断が困難だと思われま

【問題点3 急病人対応】

列車内で急病人が発生することは多々あります。現在、急病人が発生すると有人駅では救急車到着まで駅係員が対応し列車は最小限の遅れで運行されています。無人化されれば車掌対応となり救急車到着まで列車は運転再開されません。これにより後続列車は駅間に停車したまま駅に進入できなくなることとなります。通勤時間帯等の混雑した車内では更なる急病人発生が危惧されます。

【問題点4 セキュリティー】

駅無人化により夜間の溜まり場になる等、治安の悪化が予想されます。駅は市長村の玄関口でもあると思います。困った時には駅に駆け込んだら何とかして貰える。そういった暖かみのある社会を目指すのも役割ではないかとも思います。

以上の問題点を市町村の方々と共に考えるため発信しました。効率化のみでは地方に密着した企業とはなり得ません。地元の方に支えて貰える企業になるためJR東海労は訴え続けます。